

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.53

日時	2013年11月2日
行脚先	有岡城
住所	兵庫県伊丹市伊丹（摂津国）
行事名	

## 特徴

南北朝時代、摂津国人の伊丹氏によって築城されました。  
文明4年(1472年)には改築され、それまでの伊丹城が日本最古の天文台を持つ平城となりました。  
天正2年(1574年)11月18日、織田信長に命じられた茨木城主・荒木村重は、池田城主の池田氏と伊丹城主の伊丹氏を攻め滅ぼし、摂津国守護として伊丹城に入りました。その後荒木村重は伊丹城を大改修し、有岡城と改名しました。  
天正6年(1578年)播磨国三木城主の別所長治が織田信長に叛くと、つづいて村重も織田信長に叛き有岡城に籠城しました。  
これに対し織田信長は、多数の軍勢を配して有岡城を包囲しました。天正7年(1579年)村重は近習を連れて夜陰に紛れて有岡城を脱し、尼崎城へ逃れました。城主が存在しないまま籠城を続けていましたが、遂に裏切り者が出て周囲を固める砦が破られ、天正7年(1579年)末に落城となります。その後、信長は池田之助を城主に置きましたが、天正11年(1583年)美濃国へ転封となり、羽柴秀吉の直轄領となって廃城となりました。

## 黒田官兵衛との関わり

荒木村重が織田信長に叛いた際、黒田官兵衛は村重を翻意させるために有岡城に乗り込みましたが、成功せず逆に幽閉されました。官兵衛が閉じ込められていた場所は有岡城の西北にあり、後は深い沼地、三方に竹藪に囲まれており、日も差し込みにくく湿気が多い場所でした。決して快適な場所とはいえず、全身に不調をきたし、膝は曲がったまま終生不具者となってしまいました。唯一心の安らぎとなっていたのは、牢獄から見える「藤蔓」です。新芽を吹き出し、たまに花の蜜を目当てに小鳥が飛んでくる美しい光景が生涯忘れられず、後に大名の列に並んだ時に黒田氏の家紋を「藤巴」に選んだそうです。  
官兵衛は息子長政を織田信長に人質として差し出していましたが、信長は単独で有岡城に向かった官兵衛が裏切ったと思いこみ、羽柴秀吉に長政を殺害するように命じました。そこに竹中半兵衛が進み出て「その役目手前がつかまつる」として長浜城に向い、長政を自分の領地である菩提山城に移動させ、信長の命に逆らってかくまったそうです。姫路城にいた家臣達は救出作戦を練り、栗山利安、母里友信、井上九郎次郎らが商人に変装し、有岡城に潜入し投獄されている場所を特定しました。有岡城へ総攻撃が開始された際、栗山利安らが大混乱に乗じて官兵衛を救い出すことに成功しました。3名は順番に背負いながら有馬温泉に向い、しばらく体力が回復するまで逗留したそうです。その後姫路城で羽柴秀吉と対面しました。  
秀吉は官兵衛のあまりの変わりように驚き、号泣したと言われています。また、後で真相を知った織田信長も長政を殺害したことに対して大変悔やみましたが、竹中半兵衛の気転によって生きている事が解ると、大いに喜んだと言われています。

## 応援品

【ひょうたん 2個】伊丹市様より  
伊丹市の名産である「ひょうたん」に  
華麗で繊細な細工を施した品を  
頂戴致しました。



## 記録

